

更科美穂・林芽衣・菅原愛理・前田有里・佐藤信洋・岡本康寿・吉田剛司. 2007. 札幌都市部の中島公園における外来淡水カメ類の捕獲事例. 酪農学園大学紀要 自然科学編 42(1):37-42.

徳田龍弘. 2011. ミシシippアカミミガメ. p.51. 北海道爬虫類・両生類ハンディ図鑑 北海道新聞社, 北海道.

足立区におけるアライグマによると思われるクサガメの食害の初記録

辻井聖武

190-0022 東京都立川市錦町2-1-22 株式会社 自然教育研究センター

First record of Reeves' pond turtle probably fed by common raccoon in Adachi, Tokyo

By Masamu Tsujii

Center for Environmental Studies, 2-1-22, Nishiki-cho, Tachikawa, Tokyo 190-0022, Japan

近年, アライグマ *Procyon lotor* によると思われるニホンイシガメ *Mauremys japonica* (以下イシガメ) の食害が全国で相次いで報告されている(小賀野他, 2014, 2015; 鈴木他, 2015; 田上他, 2019; 多田他, 2017). 食害はイシガメに留まらず, クサガメ *M. reevesii* やミシシippアカミミガメ *Trachemys scripta elegans* にまで及んでいる(小賀野, 2019; 小菅・小林, 2015; 楠田他, 2020). 東京都足立区では, これまでに食害を受けた淡水棲カメ類の情報はなかったが, クサガメにおいて初めてアライグマによる食害と思われる個体が発見されたのでここに報告する.

2020年4月15日11時頃, 足立区に位置する河川での調査中に陸上の枯死したヨシ *Phragmites australis* の茂みの中に隠れている状態でクサガメを発見, 保護した(図1). 発見されたクサガメはメス成体の6齢以上の個体で, 発見時は左前肢以外の四肢と尾の欠損が認められた(図2). 右前肢, 左後肢, 尾部は既に完治していた状態であったが, 右後肢は治癒しかかっている状態であった. 四肢や尾以外の外傷はなかった. 発見当時は持ち合わせの測定機材がなかったため甲長等の測定は行わなかった. その後の測定で甲長は12.8cmであった. また, 足立区ではアライグマやホンドタヌ

キ *Nyctereutes procyonoides viverrinus* が生息しているとされる(浅羽純一, 私信).

これまでアライグマによると思われる淡水棲カメ類の食害の特徴を調査経験や文献などに基づいて整理すると, 1) 後肢あるいは前肢, またはその両方や尾, 頭部が噛みちぎられている, 2) 個体によっては内臓まで捕食されている, 3) 甲の外傷はほとんどないことが挙げられる. 淡水棲カメ類の四肢欠損には, 草刈機などの機械による損傷があるが, 草刈機では四肢の他に甲にも外傷を与えることが多いと考えられる. また, クサガメの捕食者としてホンドタヌキが挙げられる. 足立区にもホンドタヌキは生息しているとされるが, 今回のクサガメの欠損は, カメの甲に外傷が無く, 選択的に四肢や尾が欠損している点でアライグマによると思われる先行事例(小菅, 2011; 小菅・小林, 2015)に酷似している. 甲の外傷がほとんどないということは, ホンドタヌキよりもアライグマの方が手先が器用で四肢や頭部を引っ張り出せるため, 必要以上に甲を噛んだりしないことに起因すると推測される. 発見されたクサガメの右後肢以外の欠損部位は完治していたことから, 過去に受けた傷であることがうかがえる. 以上のことから, 本報告で捕獲されたクサガメの四肢欠損はアライグマによる食害の可



図1. 発見当時のクサガメ



図2. 発見したクサガメ. 尾と左前肢以外の四肢が欠損している.

能性があり、足立区における初記録となる。

現在のところ足立区におけるアライグマの推定個体数などのデータはなく、淡水棲カメ類の被害も確認されていないが、潜在的にはさらに多くの淡水棲カメ類含む水辺の生き物が食害に遭っている可能性がある。また、足立区には河道内氾濫原などの水辺環境が豊富に存在し、僅かながらイシガメの生息も確認されている(辻井, 2023)。アライグマの餌となり得る資源も豊富であるため、今後のアライグマの個体数増加や被害の拡大が懸念される。

本報告にあたり、株式会社自然教育研究センターの浅羽純一氏、川村芙友美氏には大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。

引用文献

- 小菅康弘. 2011. 千葉県における淡水ガメの大量死:捕食者はアライグマ?. 亀楽 1:10-11.
- 小菅康弘・小林頼太. 2015. アライグマによる淡水棲カメ類の危機. 爬虫両棲類学会報 2015(2):167-173.
- 楠田哲士・前田佳紀・原口句美. 2020. アライグマによると思われるミシシッピアカミミガメの前肢食害:屋外人工池での一例. 亀楽 20:1-3.

小賀野大一・吉野英雄・八木幸市・田中一行・笠原孝夫. 2014. 房総半島で生じているアライグマによるニホンイシガメへの被害調査. p. 103-112. プロ・ナトゥーラ・ファンド助成第22期助成成果報告書. 公益 財団法人自然保護助成基金, 東京.

小賀野大一・吉野英雄・八木幸市・田中一行・笠原孝夫. 2015. 房総半島の溜池に生息するニホンイシガメの危機的状況. 爬虫両棲類学会報 2015(1):1-8.

小賀野大一. 2019. アライグマの捕食被害を受けたと思われる作田川のクサガメ. 亀楽 19:26-27.

鈴木大・會津光博・菊水研二. 2015. アライグマの食害を受けたと考えられるニホンイシガメ. 爬虫両棲類学会報 2015(1):15-17.

多田哲子・坂雅宏・西堀智子. 2017. ニホンイシガメはアライグマに襲われやすい!?. p.85-87. 第4回淡水ガメ情報交換会講演要旨集. 認定NPO法人生態工房, 東京.

田上正隆・高木雅紀・楠田哲士. 2019. 岐阜県で発見されたアライグマに襲われたと考えられるニホンイシガメ. 亀楽 17:8-10.

辻井聖武. 2023. 足立区におけるニホンイシガメの記録. 御亀楽 1:10-11.